

データ番号	301
効用の種類	花とのふれあいによる生理・心理的効用
見出し	フラワーアレンジによる心と体のリハビリ
出典	(上毛新聞「家庭」欄 1996.6.11掲載) フラワーセラピー研究会
内容	*フラワーセラピー研究会では、花が醸し出す香りや雰囲気に触れて、心をリラックスさせるだけでなく、手先の機能回復効果も期待できるフラワーセラピーを学んだフラワーボランティアを老人ホームや知的障害者のいる施設・病院などに派遣し、普及を図っている。会では、オーストラリアに自生する花を特殊加工した「ワイルドフラワー」を用いてアレンジメント等をつくっており、出来上がった作品は半年から1年程持つうえ、香りが良く観賞用としても楽しむことができる。
備考	*フラワーセラピー研究会：平成6年に発足。代表は村田記子（東京都） 平成8年5月にはフラワーセラピーフォーラムを開催 〈参考〉 ○白鳳クリニックにおいて、脳血管障害の後遺症を持つ老人グループに試みた結果、作業が進むにつれて不機嫌が軽減し、作品が完成した時は笑みをこぼすまでになった